

## 土地改良記念碑探訪

### 南薩畑地かんがい通水碑

南薩台地の畑地かんがい事業は、馬渡川・高取川・集川の3河川及び池田湖を水源として、国営4ヶ所の揚水機場、6ヶ所のファームポンド（調整池）、総延長54.4キロメートルの幹線と93.3キロメートルの支線とからなる用水路により、指宿市・山川町・開聞町・瀬田町・知覧町・枕崎市の2市4町、6,072ヘクタールの畑地をかんがいするものである。

国営事業は、頭首工・揚水施設及び幹線水路等の基幹的な水利施設を整備し、昭和45年に着工し59年に完了した（1970～84）。それ以外の水利施設及びほ場、農道の整備は、県営畑地帯総合土地改良事業により行われ、昭和47年に着工し、平成6年に完了した。



このようにして県下随一の規模である南薩台地の土地改良事業の完成により、近代的な農業が推進されている。農産物は、全国上位のお茶をはじめ、施設栽培のスイカ、メロン、県内産の大半を占めるオクラ、ソラマメ、カンショ、大根、キャベツ、カーネーション、菊、花き類の生産も盛んで、県内有数の農業地域に生まれ変わった。これに先立って、瀬田町・知覧町・枕崎市に広がるコラ層の排除が大正末期から人力で続けられてきたことも忘れてはならない。昭和27年（1955）からのブルドーザー等による機械化によりコラ排除事業は本格化し、以後10数年にわたって、畑地農業発展の基礎づくりが積極的に進められた。

南薩台地の畑地改良は、コラ排除の成果が畑地かんがいに引継がれて実を結んだといえる。現在は南薩土地改良区が維持管理を行っている。

- ◇ 参考文献:「蓬原・野井倉 開田のあゆみ」より抜粋
- ◇ 発行:有明町教育委員会